

編集後記

本研究懇談会会誌は、年に2号の発行が若干の遅れはあるものの、行われ会員の皆様のお手元に届いている事かと存じます。現在20名の編集委員で組織する編集委員会を春の分析化学討論会の際と、秋のフローインジェクション分析講演会の際の年2回開催し、会誌の内容や執筆候補者の選定などについて相談をしながら進めております。本号も去る11月26日に九州大学で開催されました第46回フローインジェクション分析講演会の前日の25日に編集委員会を開催し、本号に寄せられました記事について相談しまして、このような形で発行することができました。共同編集の形で酒井忠雄先生（愛知工業大学）ともに編集作業をしまいましたが、今回集まりました記事の多くは昨年度から酒井先生を中心とした編集委員会の成果であります。Stockholm University の Karlberg 教授からの巻頭言は、ベネゼーラでの12回ICFIAの際に酒井先生からの依頼に応える形で寄せられたものです。フローインジェクション分析がいろいろなISOの分析に認定されているようです。また、次年度から本水先生の後を受けて本研究懇談会委員長に就任される酒井先生にも巻頭言を書いていただきました。

解説の欄は、本会誌が会員の皆様に親しみ

やすさをもっていただくことを目指して、20号より企画されているもので、本号では田中秀治先生（徳島大学）と中野恵文先生（鳥取大学）にご寄稿をお願いしました。この企画は次号にも続けていきたいと思っておりますので、会員の皆様には、ご要望やご意見を事務局や本誌編集委員会にご連絡をいただければありがたく存じます。原著論文は3報とも英文で、2件は国外からの投稿した。次号にもたくさんの論文のご投稿をお待ちしております。また、ミニレビューにも1報の投稿がありました。今後もミニレビューへのご投稿をお待ちしております。ご自身のご研究をまとめておく上で、あるいは会員の皆様へのご紹介を兼ねてご利用されては如何でしょうか。学会情報としては、引き続き田中秀治先生（徳島大学）には国内の学会のタイトルを、受田浩之先生（高知大学）にはFIAに関するたくさんの論文を収録いただいています。受田先生からは、収録のBibliographyを検索可能なデータベース化のご提案もいただいています。

来年も会員の皆様にとって寄りよい年になりますようお祈り申し上げます。

JFIA 編集委員長

今任稔彦